

まことと会便り

2021/11

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

秋季永代経法要と報恩講が無事に勤まりました。吉崎先生は三年に一度ご登壇いただきておりますのでコロナ禍では初めてのお越しとなりました。光圓寺では新しい取り組みとしてオンライン配信を行っておりますこともご理解いただき、ありがたいことでした。

本堂でのお聴聞のように双方向性の空気が無いオンライン配信を含めて、み教えを言葉で伝える難しさについて言及いただきました。物のような実体のないみ教えは言葉で伝えていくしかありません。しかしそれはどう伝わっているか確認できない難しさがあります。

一つには（その教えが）誠実であるか

一つには（その教えが）論理的であるか

一つには（その教えに）愛情があるか

仏法に遭遇うとき、それは愛情や愛着のある特別な存在を縁とします。私たちの苦しみの源ともいえる自分にとって「特別なもの」が仏教へ向かう縁を作るものでもあります。理路整然としていてただでなく人間のどうしようもない気持ちや心をそっくりそのまま包み込んで救っていただく教えだからこそ八百年もの間受け継がれてきたといえるでしょう。

行事予定



十一月十七日（水） 一時半より ヨガの会

十二月 一日（水） 一時半より ヨガの会

十二月 十日（金） 一時半より ヨガの会

★ヨガの会はコロナ禍で不定期開催になっています

開催日にお気をつけください

（令和四年）

一月十四日（金） 一時半より

御正忌法尊 本堂

報恩講 ありがとうございます

十月 十九日（火）に秋季永代経法要

二十日（水）に光圓寺報恩講

が無事に勤まりました。

今年もコロナ禍ということではありましたが、新規感染者数も大幅に減少し、緊急事態宣言も解除になりました。今後また本堂へご参拝の方々が戻っていらつしやれるよう、落ち着いていって欲しいと思います。



【報恩講・秋季永代経法要 坊守覚え書き】

*立教開宗 八百年

令和五年三月から五月にかけて、京都本願寺では親鸞聖人御誕生八百五十年と立教開宗八百年の慶讃法要が勤まります。立教開宗とはその宗派が開かれたという意味です。しかしながら、親鸞聖人は「私が浄土真宗という宗派を開く」と宣言されたことはありませんでした。親鸞聖人は、五十二歳の頃に仏教の伝統に基づいてお念仏の教えは確かであるということを示した書物『顕浄土真実教行証文類』を記されました。『教行信証』と呼ばれるこの書物はその後晩年まで加筆修正が繰り返されていきますが、教えの要となるこの書物が記されたその年を「教え(宗)」ができた時として後に立教開宗の年と制定されました。それから八百年が経ちます。最近若い方々に自分の宗教についてきちんと伝わっていないことが見受けられます。先人が脈々と受け継いできた教えを私たちが伝えていく努力が要ります。

*仏語に虚妄なし

自分の宗教について伝わっていない事と同時にまた、「本当？」という疑いの心で受け取られる方もいらっしやいます。しかし、疑いや謗そし

る心があるということはそこにはすでに仏縁があるということです。出遇いはあるが、それを受けいられないということ。では、その出遇いを信じられる人が何故信じられるのかというと、私の力で信じているわけではありません。その相手の言葉や考え、在りようから信じていることができる。つまりはその信じる心は相手からくるものなのです。浄土真宗における浄土往生の教えもまた、私の上に真実性があるのではなく、阿弥陀さまの教えであるから真実であり、私が信じるその気持ちも阿弥陀さまからいただくものなのです。

*浄土真実に二種の回向あり

ひとつには往相あり
ひとつには還相あり

ご法義の要に如来より二種の回向がされていると説かれています。ひとつは往相（往生浄土のはたらき）といい、私たちの命終わると同時に浄土へ往生させていただき、仏と成らせていただくというもの。ひとつは還相（還来穢土のはたらき）といい、仏とさせていただいたからには再び迷いの世に還り、人びとを教化するためにはたらかせていただくというもの。浄土へ往つて終わりではなくまた戻ってくる。それは、有縁の人への情を残して逝かねばならない私たちの思いをもまた、掬すくい取ってくださいるはたらきなのです。